

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年11月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694500010
法人名	医療法人 大進会
事業所名	グループホーム重富の里
所在地	鹿児島県始良市平松5320 (電話) 0995-66-5477
自己評価作成日	平成26年10月18日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

重富の里は武家屋敷跡の風情が残る閑静な住宅街の中にあり、事業所の周りは四季折々の草花が咲き、のんびりと暮らすにはぴったりの環境となっています。
グループホームと小規模多機能ホームが併設しており、ご利用者・職員は自由に行き来ができており、もし小規模を利用されている方が、自宅での生活が困難となってきた場合、環境の変化が苦手な認知症の方でもスムーズにグループホームへ入所することができます。また反対にグループホームから自宅への暮らしに戻る場合も小規模を利用しながら自宅での暮らしを支えることができます。また、法人グループには病院や老健施設があり、その方の状態によって医療、福祉と連携を図っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

始良市郊外の緑豊かで静かな環境に建てられた当ホームは、隣接地には始良歴史資料館があり、ホームのたたずまいからも、武家屋敷通りの名残りが感じられる門構えになっている。敷地内には、先に建てられた小規模多機能ホームが併設されている。仕切りの扉を開放し繋がることで往来が自由になっており、双方の利用者同士の馴染みの関係もある。年間行事や避難訓練など合同開催の機会も多く、職員間の連携や協力体制も整っている。
自治会を通して地域との交流も積極的に行っており、毎月、「重富の里」便りを地域に回覧して認知症に対しての理解を深める啓発や相談窓口として地域に貢献している。近くの神社の門松造りに参加したり、学校帰りの小学生が立ち寄って利用者と触れ合う関係を築くまでになっており、利用者の楽しみな時間になっている。
食事介助の為に毎日訪問する家族もいる等、家族の面会が多くあり、利用者個々の性格に合わせた対応や傾聴を重んじた丁寧なケアは家族のアンケートより感謝のコメントに表れている。
開設2年目の若いグループホームであるが、家族との信頼関係の構築や地域との交流を積極的に持つ努力をしており協力関係を築きつつある。認知症に関する情報発信や相談窓口として今後、地域に根ざした施設として、益々期待できるグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人理念を事務所内に掲示し、ミーティング等で理念を基に話し合い実践につなげている。	「愛、夢、学」の法人の共通理念を下に、職員は毎月のミーティング時や日々のケアの中で理念の振り返りを行い実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会などの行事や活動に積極的に参加し交流している。近くの小学校からの児童の交流体験の受入も行っている。	地域行事への参加や、近隣の小学校と連携して「かたってみろかい」徘徊模擬訓練を実施するなど地域とも積極的に交流の機会を作っている。自治会を通して「重富の里」便りも回覧しており、福祉の相談を受けるなど地域の役割の一端も担っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症の方への声かけ体験（徘徊模擬訓練）や認知症サポーター養成講座を開催。また通信誌にて認知症についての話を載せ、地域の回覧板に入れている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員や自治会長、市の職員を招いて運営推進会議を開催し、利用状況や取り組み等についての報告や意見交換、アドバイスを頂いたりしている。	自治会長、行政、家族を含めて他の関係機関の出席を得て開催されている。ホームの現状報告や地域の情報を収集し、意見やアイデアを取り入れてサービスの質の向上に繋げている。課題であった近くの神社への車の乗り入れも話し合いの結果、道路の舗装で改善され移動が容易になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域ネットワーク会議等で市の職員と意見交換や活動報告をして、協力関係を築いている。	市の依頼で「徘徊模擬訓練」として認知症の理解を深めるモデル事業を実施するなどの協力関係が出来ている。運営推進会議への参加もあり、相談事の対処など、双方で情報の共有も出来ており良好な関係である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束についての勉強会を行い、職員皆で身体拘束をしないケアに努めている。マニュアルにても、身体拘束がもたらす弊害や拘束をせずに行うケアについて載せている。	職員は身体拘束の弊害については、研修や勉強会で知識や意識を高めたケアに努めている。現場での気付きは、その都度振り返り注意を促している。日中は玄関の施錠はせず安全を確保しながら、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会や会議で虐待防止について学び、事業所内では職員間でお互いに注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で開催する権利擁護に関する勉強会へ参加をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に契約書に沿って説明し、ご家族の理解、納得の上、同意を頂いて契約をしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族交流会や運営推進会議、面会時のご家族とのコミュニケーションなどご家族の声、意見等をミーティングや職員会議で検討し業務改善に活かしている。</p>	<p>日頃から利用者や家族には何でも言ってもらえる関係作りに留意している。日頃から多い、面会の機会を大事な場面と考え、出された意見や要望は会議で話し合いの場を持ち、速やかに対処し改善へつなげている。今後は通信にアンケートを入れる等の取り組みも検討している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々のミーティングや月1回の職員会議、また個別的な面談などで意見を聞き、検討している。</p>	<p>年2回の管理者に依る個人面談の機会を設けている。職員は自己評価を通して振り返りを行いケアの反映に繋げている。職員と管理者の関係も何でも話せる空気があり、職場のストレスをため込む事の無い環境は職員のケアの質を高めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課を実施しており、面談にて個別の目標や取組計画を決め、職員の質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内や法人内で勉強会や質の向上委員会、外部研修に参加して個々の能力を高めている。また人事考課にて研修や職員面談を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同市内のグループホーム事業所と一緒に勉強会や実践報告会を行いながら交流会、研修などを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス開始時は利用者の方との信頼関係を築く為に、安心してもらえる声かけや、訴えに対して傾聴・受容することに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを利用する前に、不安や要望などを聞き、グループホームでの暮らしが出来るように支援していく事を話し合いを持っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス利用前に、アセスメント、情報収集、家族の意向などを確認し、現時点で何が問題となっているかを考えながら対応している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の出来ることを見つけ、それぞれの役割りや出来る事の喜びを味わえるように努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がストレスを感じていないかコミュニケーションの中から汲み取りながらも、一緒に支えていくよう励ましやアドバイスを送りながら、関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会が多く、一緒に外出されたり、食事を食べに行かれたりしている。ご家族が気軽に面会に来られるような関わりに心がけている。	行きつけの美容室で馴染みの人に再会する機会もある。自宅に帰り、近所の親戚を訪問したり電話や手紙などで近況の連絡をする利用者もおおり、これまでの関係継続に努めた支援である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でリビングでの団欒や職員が楽しい環境作りに関わり、利用者同士が関わり合いが出来るように配慮をするようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了となっても、また必要となった時には、また相談に応じたり、利用を始める事ができる事を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知の状態や身体的な状態、また家族からの情報をもらい、日々のケアに努めている。	意思伝達の可能な利用者も多くいる。難しい場合は、家族の協力や主治医の指示に従い、表情や所作を観察しながら支援経過に詳細に記録を残すなどし言葉にできない利用者の想いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの暮らしを聞き、その人らしい暮らしが継続できるように情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や職員間での情報交換にて利用者の過ごし方や心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族からの情報をもとに職員間の情報交換を実施し、個別性のある介護計画を作成するように努めている。	日々の関わりの中で利用者や家族の意向を反映させたプラン作りをしている。職員はミーティングやケア記録で情報の共有を図り、毎月のモニタリングで評価を行い現状の確認をした上で、必要に応じた介護計画の見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	利用者一人ひとりの日々記録を記入し、職員間での情報を共有している。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	本人の思いや変化にいち早く対応し、ご家族からのニーズにも対応できるよう努めている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	民生委員や自治会、地域の小学校との関わりはあるが、利用者一人ひとりの属している地域参加や資源活用についてはまだ不十分である。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	家族や協力医療機関との連携を図りながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	希望の掛りつけ医の受診を支援をしている。3か所の医療機関より月に2回の往診があり利用者の健康管理が日常的に密に行われている。定期受診は家族対応が主であるが、歯科医はホームの協力医へ同行支援をしている。受診結果については双方で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>同法人の病院から看護師が訪問に来られ、状態の変化などの報告、相談を行ない、緊急時の対応など家族、職員の安心に繋がっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時や入院中はソーシャルワーカーと連携を取りながら、今後の方向性など情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>方針としては、本人、家族の希望に沿った支援を行う意向であり、終末期のあり方や事業所の出来る最大限の支援を話し合っている。</p>	<p>看取りの経験もあり、現在も看取りの段階の利用者もいる。段階に応じ、主治医を含めた話し合いの機会を持ち、家族の希望に添ってホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。今後は重度化や看取りに関するホームの方針を明文化し、文書での家族の同意を得る方向を検討している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時の対応マニュアルを備えているが、定期的な訓練は行っていないので、今後実施していきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防職員に協力をもらい、消防避難訓練を行っている。また、その時に地域の民生委員や自治会長にも訓練様子を見て頂き、地域への協力も依頼している。	消防署立会いの年2回の定期訓練は併設の小規模多機能ホームと合同で行っている。1回は運営推進会議に組み込まれ、地域住民の参加も得られている。緊急連絡網に近隣の連絡先を入れ、夜間帯も誘導や見守りの協力要請が出来ている。災害時の備蓄の用意もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳のあるケアを大切に、利用者の対応に十分配慮を行っている。言葉かけなども職員間でお互いを注意し合っている。	日常的な言葉使いをはじめ、利用者個々の誇りや人格の尊重への配慮を重視している。トイレや入浴時の誘導の声掛けもさりげなく行い、食事介助も視線を合わす位置でするように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の為、自分の思いをなかなか表わす事が困難な方もおられるが、行動や表情などから汲み取るようにしながら取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を大切にしながら、利用者、一人ひとりに応じた日々のケアに努めているが、日々の業務に追われている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	日々の暮らしの中でご利用者の個々の能力を見極め、お化粧をしたり、衣類を選んでもらうよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理をする際に、野菜を切ったり、盛り付けや食器洗い、片付けなどを職員と一緒にしている。	利用者の咀嚼や嚥下状態に合わせて、刻みやミキサー食を提供している。毎日食事介助に来る家族もいる。季節に応じた保存食作りや行事食の提供もあり、弁当持参の花見など年間を通して食を楽しむ工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事量の確認を行い、また、状態に合わせ、食事をきざんだり、トロミをつけた食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きの声かけ、必要な方へは口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを記録し管理を行っている。声かけや誘導にてトイレで排泄が出来るように支援している。	個々の排泄のパターンをチェック表で把握し、適時の誘導やサインに気を付けてトイレでの排泄の自立を目指しており、現状維持や改善に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、水分補給や、必要な方へは下剤を使用して排便のコントロールをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	その日の体調をみながら行って、状態によって機械浴での入浴支援も行っている。	車椅子対応の機械浴の設備もあり利用者は身体状況にかかわらず浴槽でも、リラックスして入浴できるように支援している。季節に応じたしょうぶ湯やゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムやその日の状況を確認しながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬整理ケースを活用して職員が用法や用量、また誤薬、飲み忘れがないように確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や嗜好を把握し、本人の得意な分野での役割（裁縫や料理など）を持たせ気分転換に繋がるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせ花見や遠足、夏祭り、ドライブなど外出の機会を計画し実行している。	天候に応じた近隣の散歩や庭先を歩くことは日常的になっている。個別支援で買い物や週刊誌の購入をする利用者もいる。県外から帰省の家族に併せて自宅に帰ったり、ホームの年間行事の花見や法人の夏祭りに家族で出かけたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が出来る方については、買い物などの支援をおこなっているが、ご家族と話をし確認を取っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の状態に合わせて、職員が電話をかけて、本人に電話を替わるようにしている。手紙については、ご家族から手紙は届くが、利用者が手紙を書くという事は今の所ない。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広々としたリビングにはテーブル、椅子の他、ソファを置き、またその隣には畳の部屋があり、それぞれの状態に合わせて利用してもらっている。また絵画や花を飾っている。</p>	<p>ダイニングの掃出しの窓は非常災害時での避難に容易な造りになっている。フローリングと畳の間があり、めりはりのある共用空間で、利用者は思い思いの時間をゆったりと過ごしている。廊下の照明は程よい灯りに調整され、天窓からは自然の射光を取り入れる工夫をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者間の関係を考慮してテーブルの座席を配慮したり環境作りを大切にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族の希望を考慮し、自分の使い慣れた物や馴染みの物を持って頂けるよう本人やご家族に説明を行っている。	テレビや冷蔵庫を置いている利用者もいる。家族写真やお気に入りのぬいぐるみを飾るなどして個性があり、空気清浄機を置くなどし、ゆったりくつろげるプライベート空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は段差があまり無くバリアフリーとなっており、廊下やトイレには手すりが設置しており利用者が安全に生活が送れるようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない